

学校番号	学校名	校長名
	川崎市立橋高等学校定時制	大川 一 幸

学校教育目標	学校経営の重点目標	今年度の重点目標
<p>真理と正義とを愛し、互いに敬愛の誠を尽くし、勤労と責任を重んじ、自主的精神に満ちた心身共に健康な平和国家社会の形成者の育成</p> <p>1 知性と品性を高め豊かな情操の育成に努める</p> <p>2 協同友愛</p> <p>3 自治の精神の確立</p> <p>4 勤労愛好の習慣の体得</p>	<p>1 課題解決力を育てる教科指導</p> <p>2 進路を見据えた教育活動等の指導</p> <p>3 豊かな心で社会貢献できる力の育成</p> <p>4 魅力ある学校づくり</p>	<p>○基礎・基本の定着に基づく応用力・課題解決力及び自己学習力の育成</p> <p>○生徒の個性を尊重した進路指導・生徒指導・学校行事、特別活動指導の充実及び生徒の主体性の育成</p> <p>○人権尊重教育・道徳教育・共生共育等の推進と共に、キャリア教育の推進により、豊かな心と自己実現できる力の育成</p> <p>○保護者・地域へ開かれた、信頼される活力あふれる学校づくり</p>

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 教育課程・学習指導	<p>☆生徒が学びやすい環境作りを、定期考査前には欠席等により学習の遅れている生徒に対する補習、考査後には成績不良の生徒への補習等を行った。これからも補習を行いやすい環境づくりに努めた。</p> <p>☆支援が必要な生徒には、当該学年を中心に教科担任とも連携しより良い支援に努めた。巡回相談では指導のアドバイスをいただいた。</p> <p>☆今年度も定期的に「教養科担当者会」を行い、情報交換や、適切な指導が行えるように討議を行った。各種検定等の学習以外にも個々の学力や進路希望に応じた学習指導を少しずつ取り入れられた。</p> <p>☆指導と評価の一体化をより強固にするため、観点別評価について職員研修を行った。</p>	<p>☆定期考査前には欠席等により学習の遅れている生徒に対する補習、考査後には成績不良の生徒への補習等を行ったことで、学習意欲を高めることができた。これからも補習を行いやすい環境づくりに努める。</p> <p>☆支援が必要な生徒には、当該学年を中心に教科担任とも連携しより良い支援に努め、巡回相談では指導のアドバイスをいただいたことで、より生徒の困り感に寄り添った指導ができた。</p> <p>☆定期的に「教養科担当者会」を行い、情報交換や、適切な指導が行えるように討議を行い、各種検定にも多くの生徒が挑戦合格することができるなど、一定の成果をあげることができた。</p> <p>☆指導と評価の一体化をより強固にするため、観点別評価について職員研修を行ったことで、より適性な評価につなげることができた。</p>	<p>☆欠席等により学習の遅れている生徒に対する補習、考査後には成績不良の生徒に対しては、これからも声かけをしていきながら、前向きに学習に取り組む意欲を高めていきたい。</p> <p>☆今後さらに支援が必要な生徒が増えていくと考えられるので、当該学年を中心に教科担任とも連携しより良い支援に努め、積極的に巡回相談での指導のアドバイスをいただき、支援に生かしていきたい。</p> <p>☆定期的に「教養科担当者会」を行い、情報交換や、適切な指導が行えるように討議を行い、各種検定など多くの生徒が挑戦できる環境を整えていきたい。</p> <p>☆指導と評価の一体化を目指して自己研鑽に励む。</p>
2 生徒指導	<p>◎職員会議等、教員が定期的集まる機会を用いて、生徒指導に対する姿勢についての共通理解を図るとともに、指導方法についての情報交換やその後の指導経過等についての情報共有を行った。</p> <p>◎新入生のオリエンテーションの中で、携帯電話・スマートフォンの使用に関する指導についての時間を設けた。</p> <p>◎生徒会活動は、生徒が主体となって立案、計画、運営することが大切であるが、そのために、教員が生徒会役員をサポートし、生徒会を盛り上げる手助けを行った。</p> <p>◎日常的な相談だけでなく、定期的に行われている個人面談や教育相談で得られた情報について学年を中心に情報共有し、早期に問題を確認し、迅速に対応できるように継続的に取り組んだ。また、保護者との連携にも継続的に努めた。</p>	<p>◎職員会議等、教員が定期的集まる機会を用いて、生徒指導に対する姿勢についての共通理解を図るとともに、指導方法についての情報交換やその後の指導経過等についての情報共有を行ったことで、より適切な生徒指導につながり、生徒との良好な信頼関係を築くことができた。</p> <p>◎新入生のオリエンテーションの中で、携帯電話・スマートフォンの使用に関する指導についての時間を設けたことで、それらのトラブルを回避することができた。</p> <p>◎生徒会活動は、生徒が主体となって立案、計画、運営することが大切であるが、そのために、教員が生徒会役員をサポートし、生徒会を盛り上げる手助けを行ったことで、生徒一人一人がいきいきと学校生活を楽しむ姿が見られた。</p> <p>◎日常的な相談だけでなく、定期的に行われている個人面談や教育相談で得られた情報について学年を中心に情報共有し、早期に問題を確認し、迅速に対応できるように継続的に取り組んだことで、生徒の変化や困り感などを見極め、生徒指導につなげることができた。また、保護者との連携にも継続的に努めたことで、保護者との信頼関係も高まっていると感じている。</p>	<p>◎今後も職員会議等、教員が定期的集まる機会を用いて、生徒指導に対する姿勢についての共通理解を図るとともに、指導方法についての情報交換やその後の指導経過等についての情報共有を行っていく。</p> <p>◎携帯電話・スマートフォンの使用に関するトラブルが増えているので、指導の時間を設けていく。</p> <p>◎生徒会活動は、生徒が主体となって立案、計画、運営することができるよう、補助していく。</p> <p>◎今後も、日常的な相談だけでなく、定期的に行われている個人面談や教育相談で得られた情報について学年を中心に情報共有し、早期に問題を確認し、迅速に対応できるように継続的に取り組んでいく。</p>
3 進路指導	<p>◎キャリア教育においては、様々な考えをもつ生徒一人ひとりに対して寄り添い、根拠よくコミュニケーションをとりながら指導を行った。</p> <p>◎キャリア教育におけるプログラムについては、過去の実績を踏まえ、各学年の担任の意見も反映しながら、適切な内容を行った。</p> <p>◎職業体験については、今まで実施してきた職業に限らず、様々な職業体験ができるように受入企業を増やすことに努めた。</p> <p>◎様々な考えの生徒がいる中で、進学先合格後や就職内定後に進路変更することがないように、生徒ならびに保護者にも確認を取りながら慎重に進路決定を進めた。</p>	<p>◎キャリア教育においては、様々な考えをもつ生徒一人ひとりに対して寄り添い、根拠よくコミュニケーションをとりながら指導を行ったことで、希望する進路実現につなげることができた。</p> <p>◎職業体験については、今年度も様々な職業体験ができる受入企業に本校生が参加し、職業への興味関心意欲を高めることができた。</p> <p>◎様々な考えの生徒がいる中で、進学先合格後や就職内定後に進路変更することがないように、生徒ならびに保護者にも確認を取りながら慎重に進路決定を進めた。</p>	<p>◎今後も、生徒一人ひとりの進路に対し、寄り添い、根拠よくコミュニケーションをとりながら指導を行っていく。また、生徒の特性を把握することに努め、その特性に合った進路学習や進路指導に努めていきたい。</p> <p>◎今後もキャリア教育におけるプログラムについては、過去の実績を踏まえ、各学年の担任の意見も反映しながら、適切な内容を行っていく。</p> <p>◎職業体験については、今まで実施してきた職業に限らず、様々な職業体験ができるように受入企業を増やしていきたい。</p> <p>◎様々な考えの生徒がいる中で、進学先合格後や就職内定後に進路変更することがないように、生徒ならびに保護者にも確認を取りながら慎重に進路決定を進めていきたい。</p>
4 安全管理	<p>◎防災訓練については、夜の時間帯である定時制高校の活動時を前提とし、実際と同様な状況を想定した訓練を2回計画・実施した。</p> <p>◎昨年度実施した研修会・講習会については、どの講演会も安全・安心に学校生活を送るために必要なものであり、今年度も右記の各種講演会を開催した。</p>	<p>◎防災訓練については、夜の時間帯である定時制高校の活動時を前提とし、実際と同様な状況を想定した訓練を2回計画・実施したことで、生徒一人一人に防災の意識を高めることができた。特に放送が入ってからグラウンドに集合するまでに多くに時間を費やすことなく、短時間で集合し、速やかに点呼ができ、生徒の安全確保が十分に保たれた有意義な訓練となった。</p>	<p>◎来年度も防災訓練については、夜の時間帯である定時制高校の活動時を前提とし、実際と同様な状況を想定した訓練を2回実施していきたい。</p>
5 組織運営	<p>◎運営委員会を中心に、各組織委員会と連携しながら学校運営に努めた。</p> <p>◎入学選抜委員会では、昨年度から始まった公立のWeb出願に対応するために、組織一丸となって研修を行い、滞りなく受検生を迎えられるように準備を進めた。</p> <p>◎支援教育委員会では、毎月ケース会議を開き、支援を必要とする生徒のための個別支援計画の作成に取り組んだ。</p>	<p>◎運営委員会を中心に、各組織委員会と連携しながら学校運営に努め、よりよい学校作りにつなげた。</p> <p>◎入学選抜委員会だけではなく、全職員で研修を重ね共通理解を深められたことで、滞りなく受検生を迎えることができた。</p> <p>◎支援教育委員会では、毎月ケース会議を開き、支援を必要とする生徒のための個別支援計画の作成したことで、より適切な指導につなげることができた。</p>	<p>◎来年度も運営委員会を中心に、各組織委員会と連携しながら学校運営に努め、よりよい学校作りにつなげていく。</p> <p>◎来年度も入学選抜委員会だけではなく、全職員で研修を重ね共通理解を深めていく。</p> <p>◎今後も支援教育委員会では、毎月ケース会議を開き、支援を必要とする生徒のための個別支援計画の作成していく。そして一人ひとりの教育的ニーズに応えられる学校を目指していく。</p>
6 保護者・地域・住民等との連携	<p>◎夏休みから9月にかけて中学校訪問を行い、本校を理解してもらうことに努めた。また、ゆうゆう広場に通う生徒や教職員、関係者にも丁寧な説明を行った。</p> <p>◎ホームページを毎日更新し情報配信を積極的に行うとともに、配信内容についても保護者が定期的に関覧する内容となるよう努めた。</p> <p>◎コロナ明けから、近隣商店街の方々や、近隣地域住民の方々と交流について、文化祭や授業公開日等の機会を活用してより多くの方々と交流を図ることができないか検討を行った。</p>	<p>◎夏休みから9月にかけて中学校訪問を行い、本校を理解してもらうことに努めた。また、ゆうゆう広場に通う生徒や教職員、関係者にも丁寧な説明を行ったことで、多くの中学生が学校説明会に本校生として参加した。</p> <p>◎ホームページを毎日更新し、情報配信を積極的に行ったことで閲覧者が増加した。本校の様子をたくさんの方々に知って頂く大きな機会となった。</p> <p>◎来年度は、近隣商店街の方々や近隣地域住民の方々と交流について、文化祭や授業公開日等の機会を活用してより多くの方々と交流を図っていくよう計画を立てていきたい。</p>	<p>◎夏休みから9月にかけて中学校訪問を行い、本校を理解してもらうことに努めた。また、ゆうゆう広場に通う生徒や教職員、関係者にも丁寧な説明を行った。</p> <p>◎ホームページを毎日し、情報配信を積極的に行うとともに、配信内容についても保護者が定期的に関覧するようなものになるよう内容に努めた。</p> <p>◎コロナ明けから、近隣商店街の方々や、近隣地域住民の方々と交流について、文化祭や授業公開日等の機会を活用してより多くの方々と交流を図ることができないか検討を行った。</p>

学校関係者の評価	今年度の学校運営のまとめ・次年度へ向けて
<p>・令和6年度は学力の基礎定着(学習支援)、補習の充実、人と関わる力の向上を目指し学校行事や部活動の充実、キャリア教育に力を入れていた。中でも自立支援や就労支援、SCと連携を深めての生徒育成への取り組みは良かった。</p> <p>・SCへの相談が増えた。相談しやすく、解決に至るケースが多かった。担任やCO、生徒指導担当者にも常に報告があった。特別支援教育サポーターの存在も大きく、生徒にとっての安心感を得られている。</p> <p>・地域、町内会からは、部活動後の下校時の見守りをいつもサポートする。特に暗い箇所での照明などの協力をしていきたい。</p> <p>・生徒の夕食は、温かいお弁当を望む。電子レンジがあると良い。</p> <p>・生徒が行事や学習、部活動において挑戦し挫折を体験する。それを乗り越えて力が育っているように感じた。心強い。</p> <p>・学校に通うことを苦手としていた生徒たちが「今は毎日学校に行くのが楽しい」という声を聴いて、地域も町内会も嬉しい気持ちを感じた。(地域の声)</p> <p>・今年度よりアンケート結果が円グラフとカラーになって読みやすく、わかりやすくなった。</p>	<p>○定期考査に向けての学びの姿勢は、全般的に向上し誰もが学ぶ意義を認識している。目的意識が明確であり、近い将来社会に出るための心の準備でもあるという心構えが育ってきている。その分、指導と評価の一体化は定時制として教科担当はもとより、学校全体での確認・認定が急務と考えた。本校では、12月に教職員校内研究として「観点別評価研修会」を実施した。研修の充実化を目的に川崎市カリキュラムセンターに依頼、指導課、教育担当より講師を招き、助言をいただいた。より一層自ら学ぶ生徒の本質を高められるよう教職員の研修は積み上げていきたい。</p> <p>○進路指導においては、卒業学年時のみが取り組むことではないと考え、本校では数年前から4年間における「キャリア教育」を主軸に取り組んでいる。</p> <p>そこで今できること、将来やってみたいこと、そのための準備を生徒自身が考えるとき、土台となる材料や知識が必要となる。そのため今年度は進路企画に依頼し、年間を通してキャリアプランの具現化と実践を現実のものとする取り組みを行った。振り返りアンケートからは、「やってみたいことが少しだけ見えた」「なんとなく大学と専門学校、就職の相違がわかったような気がする」と回答。急がせることではなく、担任や進路担当が向き合いながら生徒・保護者とともに夢の実現を叶えさせてあげたい。引き続き準備、計画を密にしていこう。</p> <p>○定番定着している防災訓練、避難訓練ではあるが、本校での定着は本物に近い。3・4年生にもなると、意識が深まり、訓練音意義や目的を大切にしている。夜の訓練ではあるが、誠実に取り組む姿勢は力強い。今後も継続的に心技体での訓練のレベルアップを目指したい。</p> <p>○運営委員会は、3部会の提案を重んじ適切な協議のもとでよりよい学校づくりを目指していく。生徒が主体となり生徒が「橋定時制」を卒業してよかったと今まで以上に思えるような目標と具現化実践を高めていく。生徒会との連携を欠かさず変革期でもある橋高等学校の活性化を追求していきたい。入学してくる生徒をすべて受け入れるという視点から教職員一同構える所存である。</p> <p>○手に届く橋定時制を目指す、ボランティア清掃、生徒の高校生活のようす、スポーツ大会、文化祭、公開授業など、開かれた学校として生徒・保護者・教職員一丸となって楽しむことができた。幸いなことに、地域の方々から励ましのお声をいただき、公開授業や学校行事でもみなさまにご参加いただいたことに手ごたえを感じている。地域あつての橋高校であり、感謝の念を抱き続けていくような学校経営を惜しまないことと楽しむことを並行していきたい。</p>